

小菅村

Sobibo



エコミュージアム
日本村

素のままの美しい暮らし

環境学習の源流から未来へ ～フィールド調査の楽しみ～

東京学芸大学環境教育専修フィールド実習
2018-6-2

木俣美樹男
植物と人々の博物館／日本村塾
研究員塾生

内容

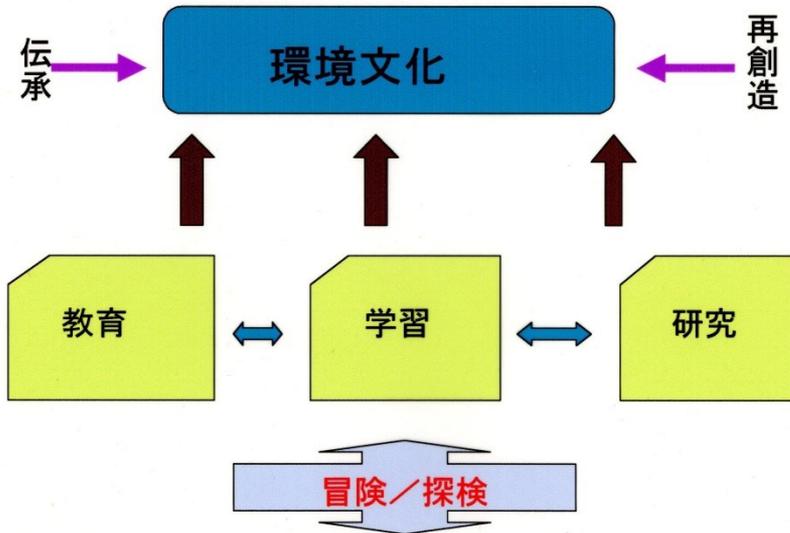
- **どのように辿るのか、人生の旅路を**
冒険探検の旅、フィールドワーク
- **エコミュージアム日本村、地域社会の維持**
トランジション小菅
雑穀街道 ⇒ FAO世界農業遺産申請提案
- **自然文化誌研究会、冒険・探検心を育む**
植物と人々の博物館
日本村塾／自給農耕ゼミ、扶桑園ゼミ、民族植物学ゼミ
- **皆様への提案、「さあ山村」**
憲法に環境原則を追加提案

冒険／探検は人生の道草

目的らしいものの分類

- 経済 金儲けの種探し
- 軍事 戦争の手伝い
- 学術 ★ 調査、研究材料を探す
- 宗教 布教、修行、経典を探す
- スポーツ 心身の楽しみ
- 観光 ★ 物見遊山
- その他 なんとなく放浪

伝統知と失われた穀物の復活



どのように辿るのか、人生の旅路を

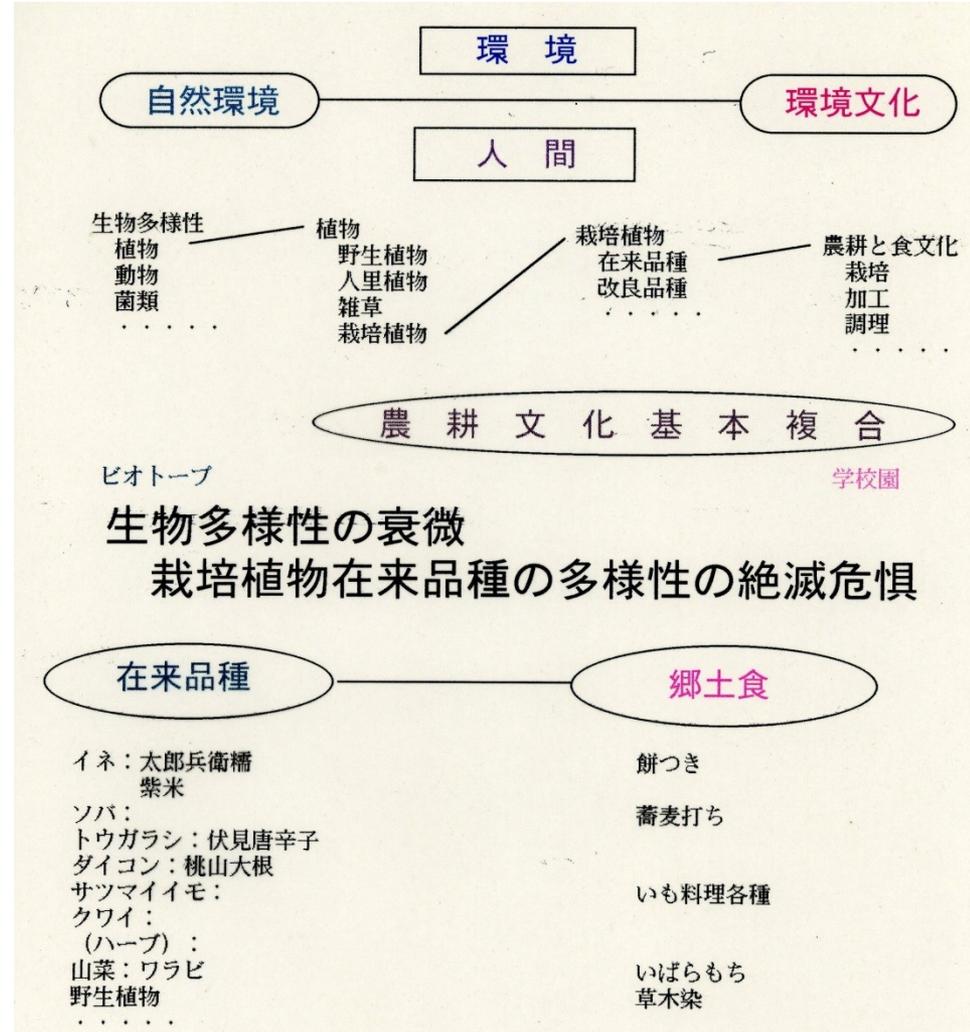


表1. ユーラシアにおける雑穀の起源と伝播に関する学術調査

西暦	地域	調査隊	備考
1974～現在	日本(沖縄から北海道までの各地)	東京学芸大学および京都大学学術調査	科学研究費、東急環境浄化財団、住友財団、財団法人森とむらの会などの助成
1983	インド(ハリアナ州)、ネパール(カトマンドウ、ダラン、ダンクッタ、ナムチェなど)	東京女子大学ネパール学術調査隊	第2次(9月～11月)、科学研究費
1985	パキスタン(北西辺境州)、インド(カルナタカ、アンドラプラデシュ、タミールナドゥの各州)	京都大学インド亜大陸学術調査隊	第1次(9月～11月)科学研究費
1986	韓国(光州)	東京学芸大学・大阪府立大学合同学術調査隊	(9月)
1987	インド(ジャムー・カシミール、西ベンガル、ビハール、オリッサ、アッサムの各州)、パキスタン(シンド)	京都大学インド亜大陸学術調査隊	第2次(9月～11月)科学研究費
1989	パキスタン(アザッド・カシミール)、インド(カルナタカ、マディヤプラデシュ、マハラシュトラ)	京都大学インド亜大陸学術調査隊	第3次(9月～10月)科学研究費
1993	中央アジア5か国(ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、トルクメニスタン)、ロシア	東京学芸大学中央アジア学術調査隊	JTクロスカルチャー大賞助成、科学研究費
1995～1996	インド(カルナタカ、アンドラプラデシュ、タミルナドゥ、オリッサ、ヒマチャルプラデシュ、ウッタルプラデシュの各州)、ウズベキスタン、中国(河北省)	文部省在外研究員(農科大学客員教授)	農科大学UAS、全インド雑穀改良計画(1996年9月～1997年6月)
2001	インド(カルナタカ州、オリッサ州)	東京学芸大学学術調査隊	(9月～10月)
2004	中国(内モンゴル・シリンホト)	東京学芸大学学術調査隊	(8月)
2005～2006	イギリス(ユーラシアの雑穀のさく葉標本および考古学文献調査)	研究専念期間(ケント大学客員教授)	王立キュー植物園、ケント大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学(2005年8月～2006年3月)
1983～現在	ヨーロッパ各国(ドイツ、デンマーク、オーストリア、オランダ、ベルギー、イギリス、フランスなど)、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、タイ	その他(ラジャバトプラナコン大学客員教授)	学会や省庁などの依頼および観光

個人史に重ねた環境教育活動の50年史

kimatamemo2018.5.24改訂

西暦	個人	日本	世界
1948	生まれる 御器所小学生、花壇づくり 桜山中学生、バス停に花を飾る		世界人権宣言、ガンディー暗殺
1956		水俣病の発見	
1964		東京都小中学校公害対策研究会創立	
	向陽高校生、園芸部、生物部、ラグビー部、生徒会		
1967		全国小中学校公害対策研究会創立	ゲバラ戦死
1968	静岡大学理学部生物学科生	大学闘争の拡大	フランス五月危機
1970	アジア・アフリカ連帯委員会、ラグビー一部、児童文学研究会；国立遺伝学研究所研修生		アメリカ合衆国環境教育法
1972	東京教育大学大学院農学研究科生、水俣病行動委員会	自然環境保護法	人間環境宣言
1974	東京学芸大学大学教育学部農学教室、学大探検部(自然文化誌研究会)創立、山村調査開始、中学校教員養成課程職業科教育		
1975	環境教育研究会の創立準備	全国小中学校環境教育研究会に改称	ベオグラード憲章
1977		環境教育研究会創立	トビリシ環境教育政府間会議
1980	京都大学農学博士取得		世界環境保全戦略
1983	インド亜大陸など海外調査開始、森とむらの会創立		
1986	東京学芸大学公開講座(環境関連)	環境庁環境教育懇談会設置	
1987	野外教育実習施設創立		
1988	環境教育学会創立準備会、雑穀研究会創立、教育学部教養系自然史専修		
1990		日本環境教育学会創立	アメリカ合衆国環境教育法2
1991	大滝エコミュージアム秩父分室	文部省環境教育指導資料中高校編	
1992		文部省環境教育指導資料小学校編	リオ環境と開発に関する国連会議
1993	中央アジア調査	環境基本法	
1994	環境教育実践施設改組	文部省環境教育指導教員講習会開始	
1995	タイでのユネスコ講師、国際シンポジウム	文部省GLOBEプログラム開始	
1996	インド・バンガロール農科大学客員、連合大学院博士課程(環境教育研究)	アジア太平洋環境教育シンポジウム	
1997	タイ、ラジャバトプラナコン大学客員、大学院修士課程(環境教育コース)	文部省ユネスコ日本アジア太平洋環境教育セミナー開始	テサロニケ国際会議
1999		食糧・農業・農村基本法	
2000	教育学部教養系課程(環境教育専攻)		
2002	環境教育法研究会(環境文明21)	文部省新学習指導要領開始	ヨハネスブルグ環境開発会議(リオ10)
2003		環境教育推進法	
2005	雑穀・野菜、有機農業研究会など		「持続可能な開発のための教育」の10年開始
2006	イギリス・ケント大学客員 エコミュージアム日本村／植物と人々の博物館、現代GP推進		
2007	小菅分室		
2010	人々とたねの未来部会(CBD市民ネット)		生物多様性条約COP10(愛知県名古屋)
2011	収集種子をKew植物園に移管、環境教育研究センター改称	東日本大震災、福島原子力発電所崩壊	
2012	ホームガーデン研究会、地域に根ざした(場の)環境教育研究会、		環境と開発に関する国連会議(リオ20)
1013	伝統知研究会		生物多様性の10年
1014	東京学芸大学定年退職		
2015	小学校教員養成課程環境教育専修		持続可能な開発目標SDGs
～	百姓、うらない作家、日本国憲法に環境原則を加える提案に参加		

探検の旅の到達点とこれから

これまで:

- ユーラシア大陸などの雑穀のフィールド調査
日本、南アジア、中央アジア、東アジア、
イギリス、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカなど
- 雑穀の起源と伝播の調査実験研究
- 環境学習の実践と理論構築

これから:

- アーカイブ・データベースの構築・公開
民族植物学ノート、ウェブサイト:先真文明論の提案
野帳資料、文献図書、民具・さく葉標本・スライドなど

このくにの自然と文化

- 自然

山が多い。約70%が森林。

川は短く急流である。「水に流す」

海に囲まれている。島が多い。

火山が多い。

- 文化

極東辺境の地で、海に囲まれ、先行きがない。

移入した文化を変容してきた。

独自の栽培植物は少ないが、在来品種は多い。

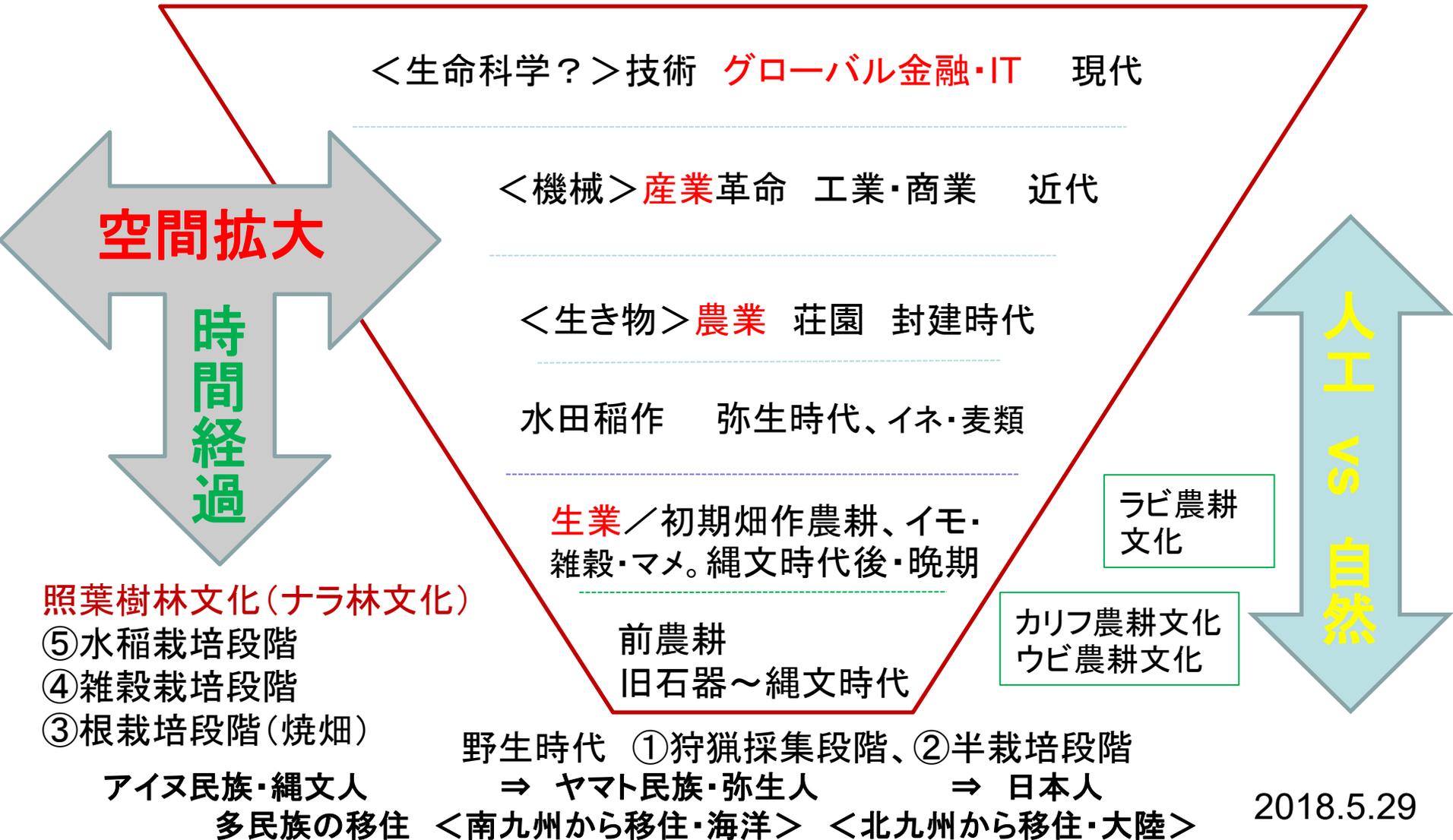
縄文土器は今のところ世界最古。山住の文化。

弥生文化、平場住み。環境が多様である。

現在日本の農耕文化の歴史的多層構造

連続的に、混合的な生物文化多様性への蓄積と衰退

複雑／単純、虚無・便利の超克 (The nothing / The convenience)



生業・仕事・職業

- 生きるためにする暮らしの仕事
- 自然に近い暮らしは不便だが、自律して楽しい
- 家族や地域社会のためになる仕事
- 職業ではなく、趣味になることもある
- 給料を得ることも、無償のこともある

注:

生業とは生活を立てるための仕事、自然のもつ多様な機能から生活に役立つ価値を引き出す行為である(春田1995)。

生活のためのしごと(広辞苑はそっけない記述)

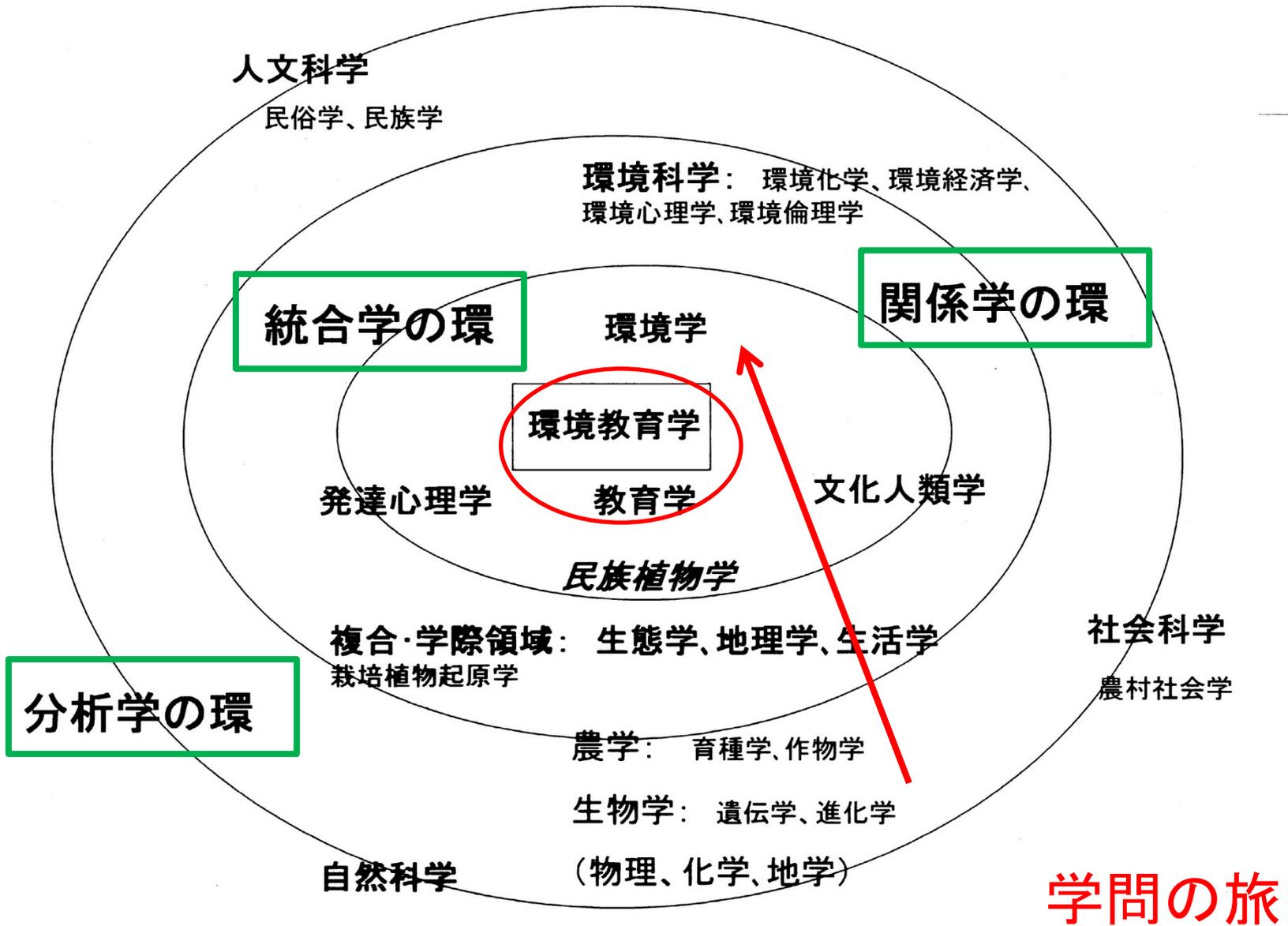


図5 環境教育学の位置づけ

伝統地域⇒ 近代学校制度⇒ 現代国際化⇒ 未来文明

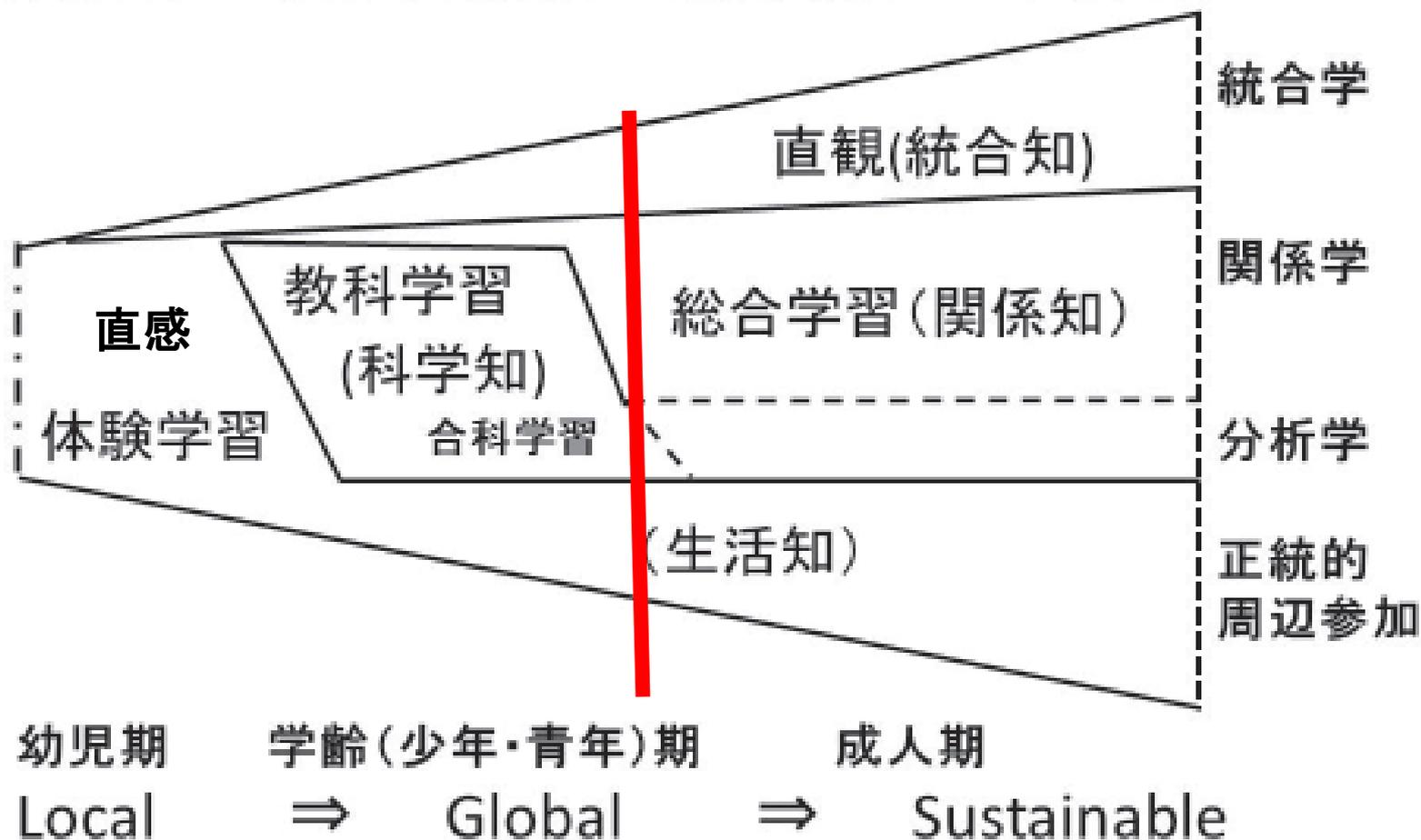


図1 人類の文明社会の複雑化に適応する生涯にわたる環境学習過程の構造(作業モデル6)。

ELF環境学習 過程

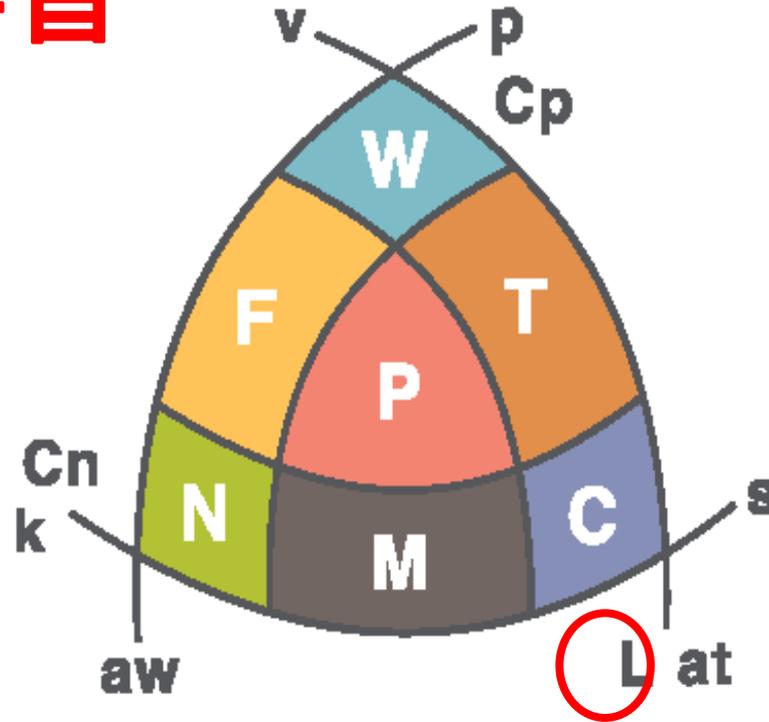


図 1: ELF 環境学習プログラムの枠組み

■基本学習プログラ 自然誌N、文化誌C、世界観W

■関連学習プログラム 生産 M、思索 T、感得 F

■統合学習プログラム 遊戯 P

■行動学習プログラム 地域 L、協働 Cp、保全 Cn の各学習プログラム

■環境教育目標 関心 aw、知識 k、技能 s、態度 at、参加 p、価値観 v

山村から自然と文化を学び、考える

農山村の 多面的機能

世界観

自然観、価値観の形成
信仰、アニミズム

エコミュージアム 日本村

自然

環境保全、水源涵養
災害防止、
生物多様性の保存

神社・仏閣

郷土資料館

農業慣行
農耕儀礼
文化財

農山村

集落景観、居住形態、
生活様式、社会関係、
伝統的知恵(食文化など)

野生生物

山・森・川

生物文化

里山、農耕地、農家

農林業生産機能
生活文化機能

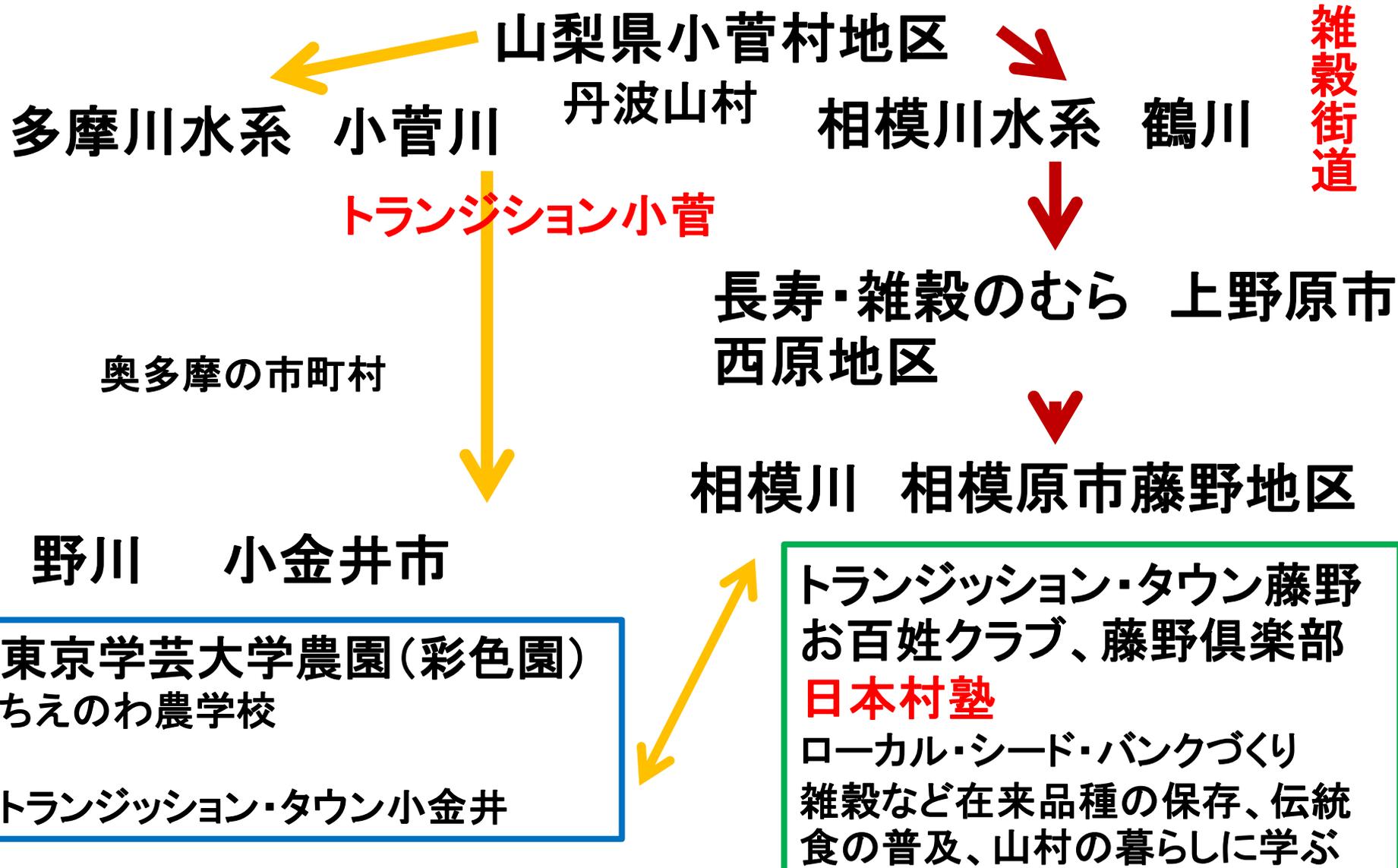
レクリエーション機能、教育機能

自然環境保全機能

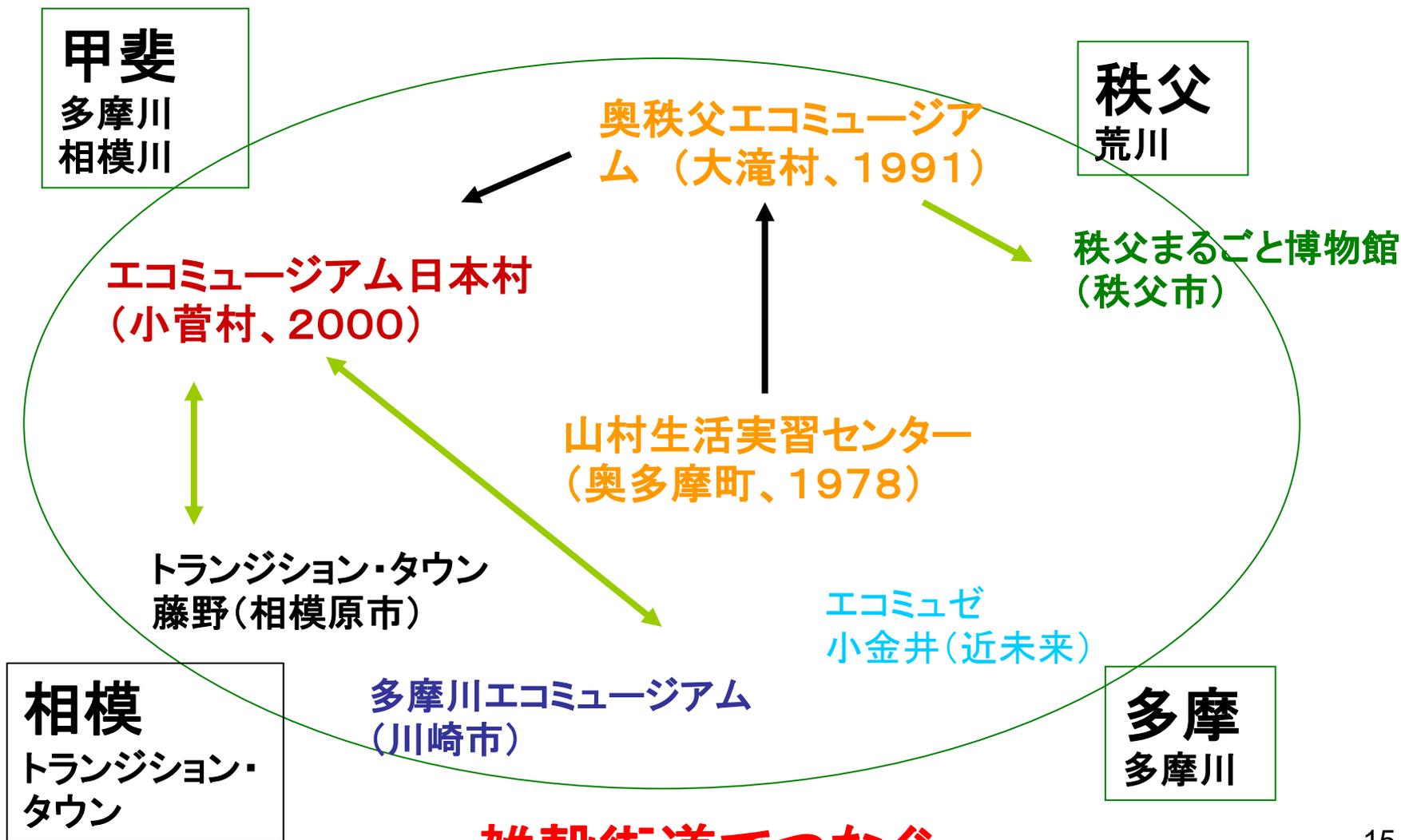
登山道、林道、生活道

2018年の課題
FAO世界農業遺産申請

エコミュージアム日本村



秩父多摩甲斐国立公園／エコミュージアム・ネットワーク



雑穀街道でつなぐ

自然文化誌研究会の活動場所

キャンプ場

道の駅

道の駅小菅駐車場

臨時駐車場

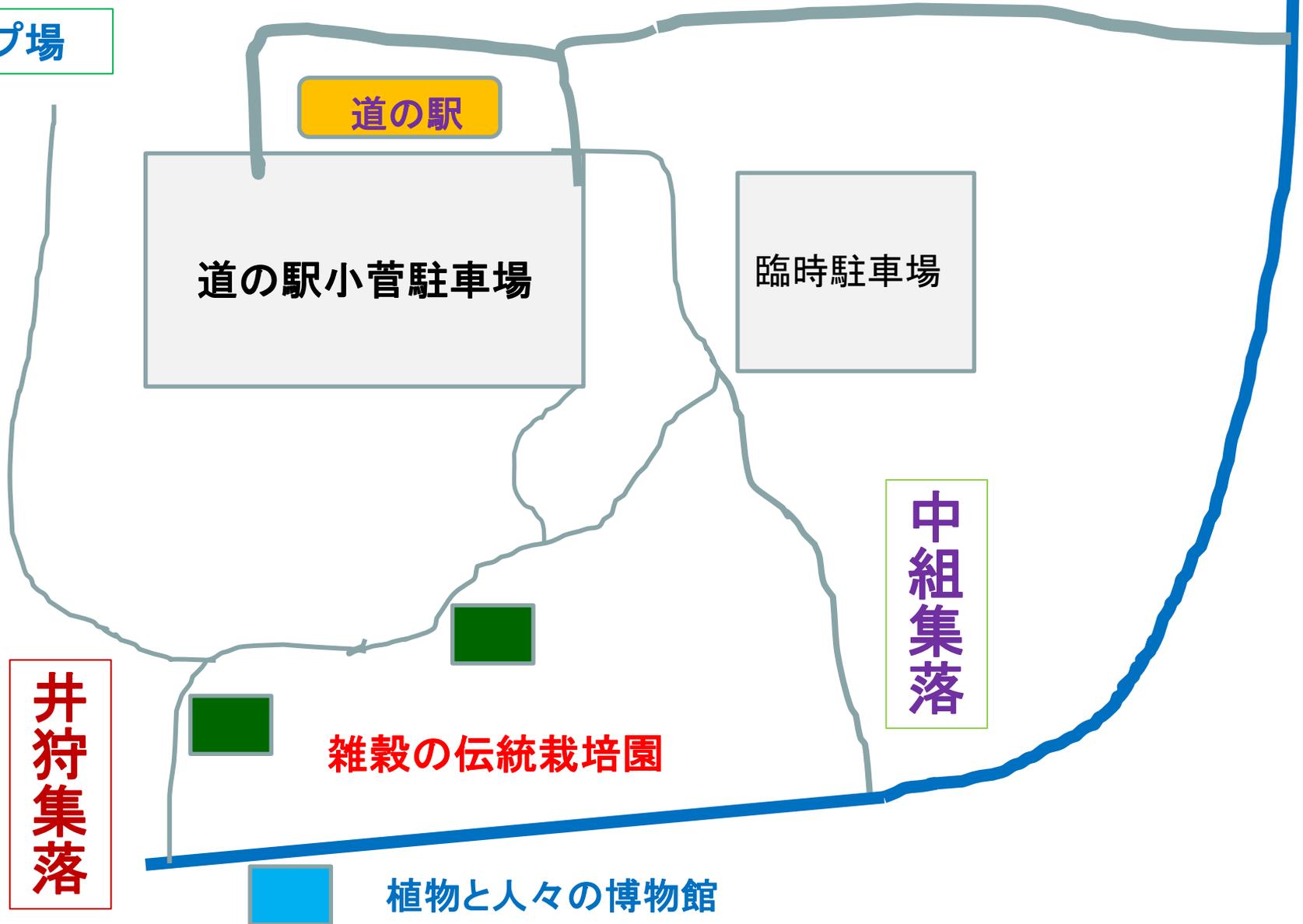
橋立集落

中組集落

井狩集落

雑穀の伝統栽培園

植物と人々の博物館



雑穀の位置づけの現代史再考

- 戦時の政策
 - 雑穀栽培の奨励と配給規制(1944)
- 敗戦後の政策
 - 主要農作物種子法(1952)、稲、麦、大豆
- 日本民俗学の系譜: 山民・雑穀への差別意識
 - 柳田国男の稲作単一民族説←多民族説・山民
- 作物学、戸苅義次らの『食用作物』の系譜
 - 雑穀は消滅
- 考古学における縄文農耕論の拒否
 - 弥生稲作農耕へのこだわり
- 縄文人の後裔アイヌ民族の農耕の否定
- 現代の健康志向、アトピー対策、輸入・高価格

表17 カリフ農耕文化の発展段階

I 野生採集段階

II 原始作物利用段階

果実類〔タマリンド・パルミラヤシ〕

多年生ミレット *Sorghum halepense*

半栽培・人為的伝播始まる。

III 一年生ミレット栽培段階

一年生ミレット栽培始まる。

マメ類・果菜類栽培化

IV 湿生ミレット利用段階

イネ栽培化おこる。 **多年生の一年生化**

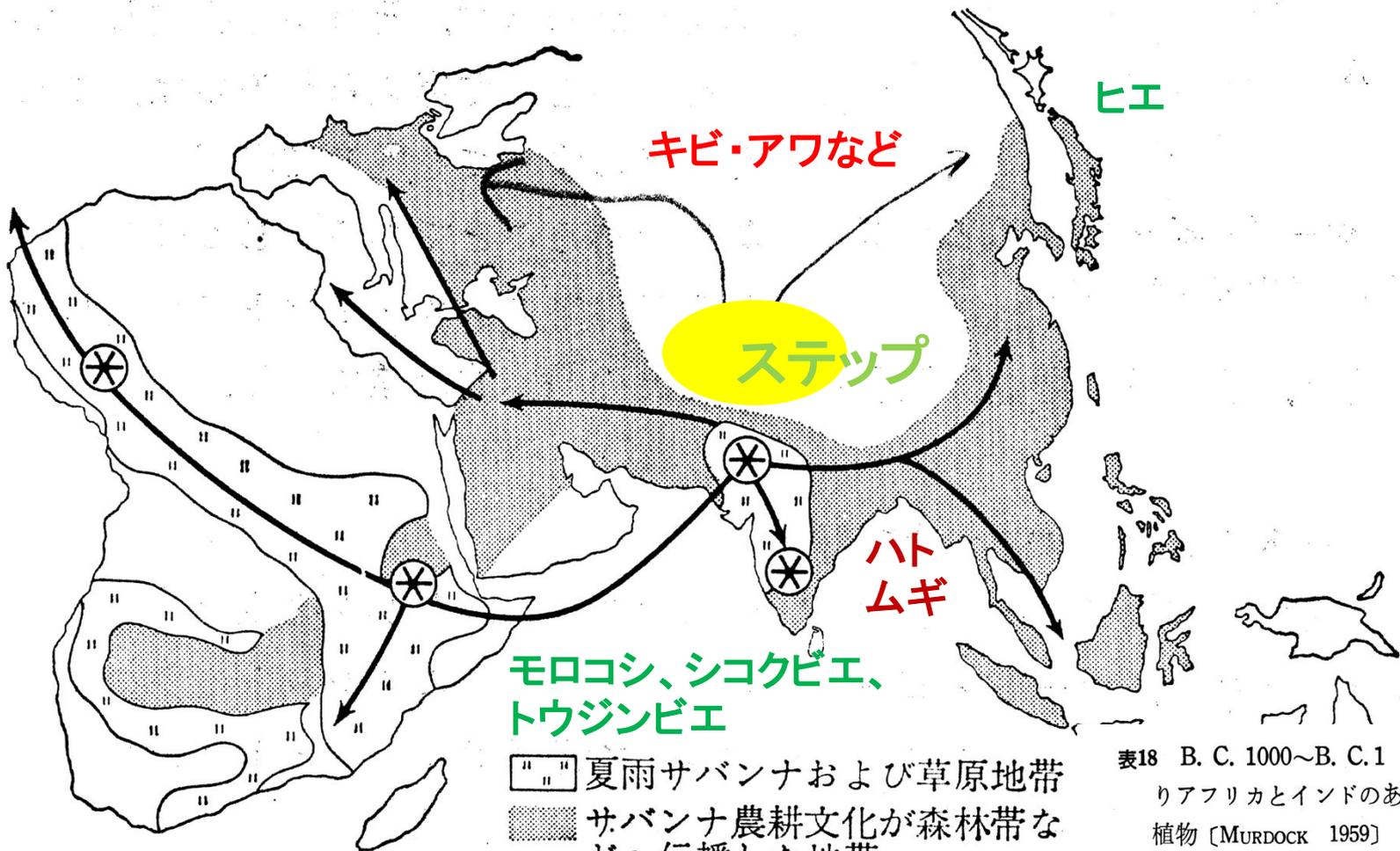
V 油料作物栽培化段階

アフリカにて油料作物栽培始まる。

* **イネ、コドラ、ハトムギは湿地の多年生植物**

表15 アフリカとインドにおけるシ
コクビエの名称の分布〔p. 387注
参照〕

Uimbi	ニグロ語
Dagussa	アビシニア
Murwa	アフリカ奥地
7 Moru	ザンデ語
Telebum	アラビア語
Rajika	サンスクリット語
Mandua, Mandal	ヒンディ語
Marua	ベンゴール語
Nagli, Nachoi	マラティ語
Bavto, Nagli	グジュラート語
Ragulu	テルグ語
Ragi, Kelvaregu	タミール語
Ragi	カナラ語
Muttari	マラヤーラム語
Koraken	セイロン語
Kodo	ネパール語



- 〃〃 夏雨サバンナおよび草原地帯
- ▨ サバンナ農耕文化が森林帯などへ伝播した地帯
- ⊗ サバンナ農耕文化のセンター
南アフリカのサバンナでは独特な農耕文化は発生しなかった

表18 B. C. 1000~B. C. 1 のころ Cushites により
 アフリカとインドのあいだで交換された栽培
 植物 [MURDOCK 1959]

アフリカよりインドへ伝播	インドよりアフリカへ伝播
<i>Ricinus communis</i>	<i>Phaseolus mungo</i>
<i>Vigna sinensis</i>	<i>Dolichos lablab</i>
<i>Lagenaria</i> sp.	<i>Cajanus cajan</i>
<i>Sesamum indicum</i>	<i>Canavalia ensiformis</i>
<i>Gossypium herbaceum</i>	<i>Cucumis sativa</i>
○ <i>Eleusine coracana</i>	<i>Solanum melongena</i>
○ <i>Pennisetum typhoides</i>	<i>Momordica charantia</i>
○ <i>Sorghum vulgare</i>	<i>Zingiber officinale</i>
	<i>Cannabis sativa</i>

図20 サバンナ農耕文化の分布と伝播

東アジアへの農耕文化の伝播

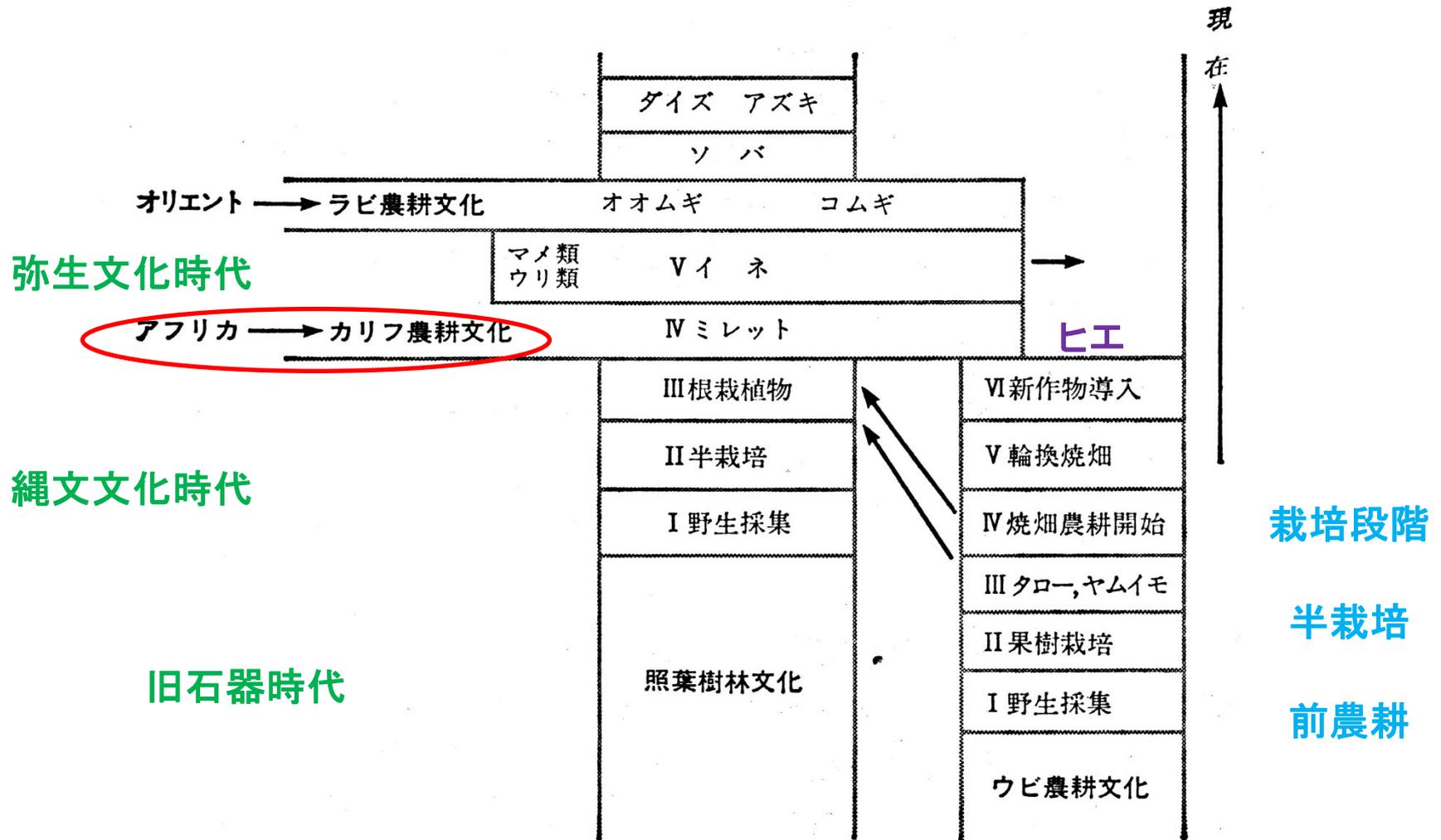


図 8 東亜における各農業文化の発達とその系統図 [表 7, 11 参照]

1950年世界農林業センサス・市町村別統計表

穀物 都道府県	あわ			もろこし			きび			ひえ			しろくびえ			とうじんびえ			はとむぎ		そば		
	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町		
山梨県																							
北都留郡	4878	153.81		1303	24.99		1714	34.75		608	13.92		95	1.57		172	3.35		3	0.03		1312	21.99
笹子村	161	2.95		0	0		53	0.94		0	0		0	0		0	0		0	0		112	2.01
初狩村	145	2.38		5	0.05		4	0.09		5	0.13		0	0		0	0		0	0		69	1.15
大月町	230	5.29		47	0.99		40	0.81		12	0.2		0	0		0	0		0	0		83	1.63
賑岡村	227	10.06		50	1.19		122	3.01		3	0.08		0	0		0	0		0	0		9	0.1
七保村	521	15.63		72	2.12		363	11.18		234	5.98		0	0		0	0		0	0		85	1.28
猿橋町	353	7.61		0	0		69	0.92		6	0.09		0	0		0	0		0	0		94	1.32
富浜村	365	10.99		11	0.15		30	0.55		13	0.26		0	0		0	0		0	0		123	1.72
大目村	254	10.97		46	1.94		21	0.94		1	0.08		0	0		0	0		0	0		33	1.00
甲東村	294	11.08		30	0.56		19	0.34			0		0	0		0	0		0	0		7	0.08
梁川村	239	10.54		147	3.03		101	1.87		0	0		0	0		0	0		0	0		66	0.86
巖村	295	11.94		75	1.16		86	1.45		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
大鶴村	192	8.87		24	0.36		17	0.21		0	0		0	0		0	0		1	0.01		8	0.01
島田村	215	9.42		8	0.13		51	0.79		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
上野原町	397	16.3		34	0.44		36	0.7		0	0		0	0		0	0		0	0		11	0.19
柵原村	327	11.36		342	6.9		259	4.55		38	0.93		0	0		12	0.19		0	0		19	0.33
西原村	205	2.54		198	2.29		142	1.46		123	2.21		24	0.41		154	3.09		0	0		106	1.32
小菅村	173	2.92		93	2.09		86	1.26		119	3.21		7	0.11		0	0		0	0		174	2.92
丹波山村	190	2.94		108	1.50		215	3.68		48	0.69		63	1.04		6	0.07		0	0		199	4.50
南都留郡																							
秋山村	356	13.23		66	1.44		19	0.44		0	0		0	0		0	0		0	0		16	0.21
道志村	243	8.12		6	0.18		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		11	0.20
神奈川県																							
津久井郡	3762	149.22		604	9.68		527	9.54		17	0.26		3	0.11		0	0		2	0.01		199	2.93
川尻村	258	7.44		84	0.15		52	0.63		0	0		0	0		0	0		0	0		31	0.32
湘南村	134	4.99		8	0.09		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
三沢村	120	4.77		14	0.52		12	0.21		0	0		0	0		0	0		0	0		10	0.13
中野町	393	10.91		0	0		22	0.40		0	0		0	0		0	0		0	0		30	0.3
串川村	547	13.04		105	1.40		3	0.07		0	0		0	0		0	0		0	0		89	1.63
鳥屋村	166	5.43		0	0		1	0.02		0	0		0	0		0	0		0	0		13	0.18
青野原村	231	6.71		0	0		1	0.02		3	0.04		0	0		0	0		0	0		0	0
青根町	125	3.72		41	1.16		6	0.08		41	1.16		0	0		0	0		0	0		0	0
内郷村	325	12.02		19	0.24		6	0.08		1	0.01		0	0		0	0		0	0		4	0.08
千木良村	146	4.42		0	0		36	0.55		0	0		0	0		0	0		0	0		3	0.03
小原村	38	1.01		9	0.11		14	0.24		1	0.01		0	0		0	0		0	0		0	0
与瀬村	100	3.42		5	0.08		5	0.12		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
吉野村	104	4.69		12	0.13		54	0.84		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
小瀬村	103	5.97		8	0.09		49	0.86		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
沢井村	130	8.56		4	0.05		74	1.77		1	0.01		0	0		0	0		0	0		0	0
日連村	90	6.85		9	0.12		22	0.34		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
名倉村	125	7.96		16	0.66		8	0.13		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0
牧野村	419	23.75		0	0		63	1.36		7	0.15		0	0		0	0		0	0		8	0.17
佐野川村	210	13.58		49	0.88		94	1.78		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0

北都留郡、七保村、丹波山村、小菅村、西原村、柵原村、東京都小河内村は種数が多かった

戦時と現在の農作物作付面積													
年次	稲	麦類	甘藷	馬鈴薯	雑穀	豆類	野菜	果樹	工芸作物	緑肥作物	飼料作物	桑	仮総計
1941	3182	1793	311	181	258	518	444	137	307	506	84	494	8254
1942	3164	1913	323	194	252	503	444	141	284	518	99	413	8284
1943	3110	1813	328	205	259	490	433	124	186	459	113	364	7920
1944	2979	1892	310	207	244	427	414	115	149	434	111	305	7617
1945	2894	1725	404	215	236	382	398	103	127	337	112	242	7201
					ソバ							茶	
2016	1479	275.9	36		6.6	150		219.8		1082		43.1	
改定日本農業基礎統計1977、農林統計協会					仮総計には茶・その他が含まれていない				農林水産省統計データ2018				
単位:千町歩、千ヘクタール			町歩=0.9917ヘクタール										

戦時の最大作付面積に対する現在の比率: 人口比 1.77倍

稲 約 46.5%

麦類 14.4

甘藷 8.9

雑穀 0.1

豆類 29.0

日本の人口増減の比較			
西暦	人口	増減%	備考
1940	73075071	5.5	
1945	71998104	-1.5	戦死
1950	83199637	15.6	ベビーブーム
2010	128057352	0.2	
2015	127094745	-0.8	自然減



移出・移入

輸出・輸入

在来種子

販売種子

戦略物資

生物文化多様性

主要穀物市場

雑穀

律令制、石高制、税制

パンコムギ、イネ、
トウモロコシ

生きる糧

売買する商品

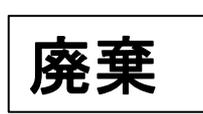
自給、贈答

税、給料

商品

貿易品

都市



有機肥料循環



農山漁村

最終処分

i) 縄文後晩期に農耕文化が順次伝播して以来、数千年にわたって、日本の食材として、人々の生命を支えた糧であり、生きた文化財である。遠くアフリカから来たシコクビエ、モロコシ、中央アジアから来たアワ、キビ、東南アジアから来たハトムギ、おそらく北日本で栽培化されたヒエ、今も絶滅寸前とはいえ、日本各地で栽培されつづけている意義はとても大きい。

ii) 郷土食は混合した食材を用いていた。季節ごとに多様な食材を作ることで、食の多様な楽しみと同時に、飢饉にそなえて食の家族レベルでの安全保障をしていた。

iii) 人口増加、食料不足、食の質的安全、環境変動、社会変動、複雑化や急激な変動に対応するために、伝統的な食、農法を実際に継承しておかないと、家族、地域社会、大きく言えば民族、世界の人々の食料安全保障をすることができない。

iv) 雑穀はC₄植物が多く、乾燥地でもよく生育するので、地球温暖化・砂漠化に対応できる。

くにを良くする学びの提案

エコミュージアム日本村は伝統文化を身につけた「日本人」になる暮らしの場であり、学びの場でもあります。

森と水、生物多様性を守ってきた山村暮らしの多様な技能、生活文化を都市民に伝えることを、山村の新たな「教育観光産業」として、仕事場を作りましょう。

村民の意思が直接確認できる小さな自治体の試みが日本や世界に良い影響を与えます。志を高く、大きく、山村民と都市民の有志がともにゆっくりと話し合っ
て、素のままの美しい暮らしを提案しましょう。

最近の災害から何を考えましたか？

- 自然災害
 - 地震、津波
 - 台風、ゲリラ豪雨、洪水、土砂崩れ
 - 火山噴火
 - 大雪、雪崩、冷害やませ、干ばつ
- 人為災害
 - 原子力発電所メルトダウン、放射線被ばく
 - 環境汚染、公害病、生ごみの大量廃棄
 - 経済破綻、貧富の格差拡大、過疎高齢化
 - 戦争、内戦（TPP、解釈改憲）
 - 人口増加、食糧とエネルギーの南北差

災害から家族や地域を守るには

- 自然に近い山村や食料生産の現場である農漁村の暮らしから、伝統的な知恵を学ぶ。
- 災害の歴史から、生存する技能を学び、対応する。
- 身近な地域で、小規模自給農耕をする。
- 家庭や地域で非常時の食料を備蓄する。
- 緑地を避難場所として保全する。
- 別の場所に親戚や友人をつくり、非常時には助け合う。
- 「今だけ、金だけ、自分だけ」をよして、心豊かな人々が暮らす地域社会を築く



植物と人々の博物館

Plants and People Museum



展示解説などを希望される方は、メールで、ご連絡ください。

担当: 木俣 研究員村塾生
kimatami@u-gakugei.ac.jp

まち(都市)を考える

- 自然や山村(農山漁村)から離れたら、孤立するのは都市です。
- 都市でも、家庭菜園・市民農園を普及して、少しでも食料を自給しましょう。
- 山村(農山漁村)から伝統的な知恵を学び、持続できる社会を創りましょう。

むら(山村)から学ぶ

- 山村(農山漁村)は暮らしの中で、自然と闘い、共存し、共生をしています。
- 山村(農山漁村)は自然に添った伝統的な暮らしの知恵を蓄積しています。
- 山村(農山漁村)は水や森を保全し、食料を生産しています。

施設案内

民具展示・収蔵

- 1) 学術探検の道具、雑穀関係、狩猟道具の展示
- 2) フィールド調査で収集した生活用具、雑穀のさく葉標本
- 3) フィールドで撮影した写真スライド

森とむらの図書室

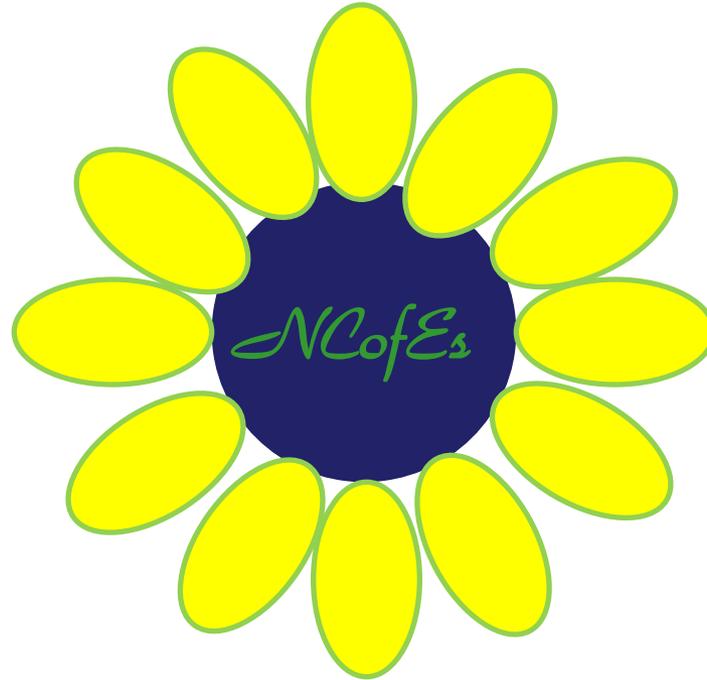
- 4) 農林業、民族植物学、環境学習、冒険探検、文化人類学、南アジアなどの関連図書、VTR・DVDなど
- 5) フィールド調査報告の関係資料、環境教育関連資料
- 6) 森とむらの会農林行政政策の調査資料

展示の基本概念

- 1) エコミュージアム日本村のコア博物館として、世界の植物と人々の関わりの自然文化誌を展示し、現代社会における山村の伝統的知識や生物文化多様性の大切さから、日本と世界における小菅村の重要な位置づけを示します。
- 2) 小中学生、地域住民、訪問者ほか多くの方の環境理解に役立つものにします。
- 3) 科学から環境学へと、分析と統合の学びの調和をはかります。
- 4) 直接体験によって五感から第六感に向かう環境学習 From five senses to the sixth sense を行います。

日本村塾

Nihonmura College for Environmental Studies



自給農耕ゼミ
扶桑^園ゼミ
民族植物学ゼミ

塾生募集

連絡先: エコミュージアム日本村 /
URL: <http://www.milletimplic.net/>
<http://www.ppmusee.org/>

kimatami@u-gakugei.ac.jp

生物の文明への黙示録
植物と人々の博物館

日本村塾：学びたい人々だけが集う本来の大学。先生なし、授業料なし、入学試験なし、資格取得なし。くに^①の市民が**学び**— 合う、変わる、伝える
セミナー、E-学習

文化を再創造、継承する
くにの暮らしを良くする
平安な真文明に移行(トランジッション)する

民族植物学、自給農耕、扶桑園ゼミの趣旨

世界中で気候変動が大きくなり、ピークオイルも越えました。

日本では未曾有の大地震・津波の被害復興の努力を重ねていますが、一方で原子力発電所の放射性物質公害が進行しています。

都市民は日本村での環境学習によって、持続可能な地域社会を都市に再生する契機を得ることができます。

私たちが子孫のために地域社会を維持したいのなら、私たちは山村の伝統的知恵を学び、素のままの美しい暮らしにゆっくりと変えていきましょう。

雑穀栽培講習会 日本村塾

植物と人々の博物館では雑穀栽培講習会を、伝統的栽培者の指導で行っている。上は、丹波山村の岡部良雄さん(農家)に播種法を習っている。下は、日本村塾自給農耕ゼミで、オオムギを水車で搗精しながら、トランジション・タウン藤野の皆さんが西原の中川智さん(農家)、白水智さん(古文書学)らと伝統的山村農耕について学び合っている。



健康な食生活の伝統

この山村には縄文時代以前から人々が暮らしてきました。生活は、山菜、キノコ、鳥獣魚などの山の幸と、農耕の恵みに支えられていました。冬は陽当たりの良い山畑でオオムギを、夏は雑穀、イモや野菜を栽培してきました。多様な食材を用いて、季節折々の様々な料理が工夫され、家族を楽しませています。山畑ではコンニャク、溪流にはワサビを植えます。

左は水車で搗精したキビとアワ。右は初夏の大麥の畑(六条ムギとモチムギ)。



古守・鷹觜両先生の意見 梶原の長寿の要因

①長寿梶原は**麦を中心とした雑穀、いも類**を十分に摂取して、ビタミンB1、B6等を充実している。

②**全粒粉および小麦胚芽**の高度活用により、ビタミンEを多量に摂取し、不飽和脂肪酸に対する比も正常値を示している。

③低コレステロール食品を適当に組み合わせ、動物性食品を発達段階に応じて適量にとっている。

④梶原地区特産の**冬菜の常食**によって、ビタミンA、C、鉄分を十分に補給している。

⑤**発酵食品**を十分に活用し、腸内細菌を正常に保っている。

⑥調理はすべて**一物全体食、土産土法**でなされていた
+⑦**食物繊維**多含食品を補充する。

(古守・鷹觜1986)

健康・予防医学、栄養学を大切にする。

ピンシャンコロリ天寿

マクガバン・レポート(1977)

- マクバガン上院議員が政府に提出した国民栄養問題特別委員会レポート

病気と食事の関係:

- 1)がんは、食事や栄養の摂り方の間違いで起きる『**食源病**』である。
- 2)先進国にがん・心臓病・脳卒中などの病気が急増したのは、**食生活が悪い方向**に変化したからである。
- 3)二〇世紀初めのアメリカでは、がんや心臓病は**珍しい病気**であった。

- 改善目標

1)野菜・果実・全粒(未精製)穀物による炭水化物(糖質)の摂取量を増やす。

2)砂糖の摂取量を減らす。

3)脂肪の摂取量を減らす。

4)とくに動物性脂肪を減らし、脂肪の少ない赤身肉や魚肉に替える。

5)コレステロールの摂取量を減らす。

6)食塩の摂取量を減らす。

7)食べ過ぎをしない。

チャイナ・スタディ(2004)の推奨:

私たちの健康と食べ物に関する「八大原則」

食習慣が与えてくれる恩恵

- 1) **栄養の正しい定義とホールフードの価値を知る**
 - 2) サプリメントへの警鐘を知る。
 - 3) **植物性食品の意義は甚大である。**
 - 4) 遺伝子の働きは栄養次第である。
 - 5) 有害な化学物質以上に有害なものがある。
 - 6) 正しい栄養摂取が回復をもたらす。
 - 7) 正しい栄養は体全体に貢献する。
 - 8) **体はすべてつながっている。**
- 自分の問題から、地球への貢献へ

プラントベースでホールフード(未精製・未加工)の食事
(T.C. Campbell and T.M. Campbell 2004)

山村の伝統的知識体系の意義

- 自然との関係、競争、共存、共生の伝統的知識の蓄積
- 自然の生態的保全、森林林業、山地放牧、農業生産
- 自然の共存的利用、生きるための生業、狩猟、採集、漁撈、食文化

家族自給農耕 ⇒ 食料安全保障

- 生業の知識・技術の維持、生物文化多様性の保全
- 民俗・民族資料の保存
- FAO世界農業遺産の継承と地域連携

みなさまへの提案、「さあ山村」

- 雑穀街道で雑穀のむらをつなぐ。
- ホームガーデン家族小規模自給農耕で、雑穀・野菜などの伝統栽培を維持、郷土食を伝承し、新しい料理を開発する。
- 学びを通じた風土産業、日本村塾を創る。
- 伝統知を学び合うことで、素のままの美しい暮らしSobiboを勧める。
- 相模川・多摩川流域近隣市町村の中山間地との連携、地域経済をつくる。

雑穀街道



Hirse Straße

山梨県上野原市桐原は古守豊甫さん(健康医学)、近藤正二さん(長寿学)、鷹嘴テルさん(食物学)、光岡知足さん(腸内細菌学)らの予防医学研究により世界保健機関WHOも調査に来たほど、世界に知られた穀菜食による長寿村でした。雑穀が現在まで栽培され続けているので、多くの研究者たちが訪れています。雑穀を栽培する生物文化多様性が豊かな地域として、上野原市桐原につながる相模川水系の相模原市緑区藤野から多摩川水系の丹波山村までをつなぐ道を、雑穀街道と呼ぶことにします。

東京

多摩川水系

丹波山村: 東京都水源林道の駅たばやま

小菅村: エコミュージアム日本村(トランジション小菅)道の駅こすげ(雑穀販売)、植物と人々の博物館(雑穀栽培講習会、見本園、展示、標本、調査資料、書籍)

相模川水系

上野原市:
西原: びりゅう館(雑穀販売と長寿食)
桐原: 長寿館、旅館(長寿食)
上野原: 長寿村の碑

横浜

相模原市緑区:
トランジション・タウン藤野(雑穀栽培講習会、ローカル・シードバンク、書籍)、
百笑の台所(展示、韓国料理、雑穀販売)

雑穀街道でつなぐ健康長
寿食と農耕文化複合
さあ、山村!

雑穀街道がつなぐ トランジッションタウン

- トランジッションタウン
- ◎ エコミュージアム日本村
(トランジッション小菅)
- ← 雑穀街道

- 鎌倉街道
東京都道18号府中町田線
神奈川県道・東京都道52号
相模原町田線
神奈川県道402号
阿久和鎌倉線

- ⇨ 中央ライン
- ⇨ 湘南新宿ライン



所在地 マップコード **MAPL001** : 8 216 793*22 緯度経度: 北緯:35度19分8.79秒、東経:139度33分1.47秒

所在地 マップコード **MAPL001** : 348 726 331*06 緯度経度: 北緯:35度47分22.95秒、東経:138度55分20.02秒

日本と世界の現状認識

非人間的

過剰から適正へ

不情理

新ルネサンス

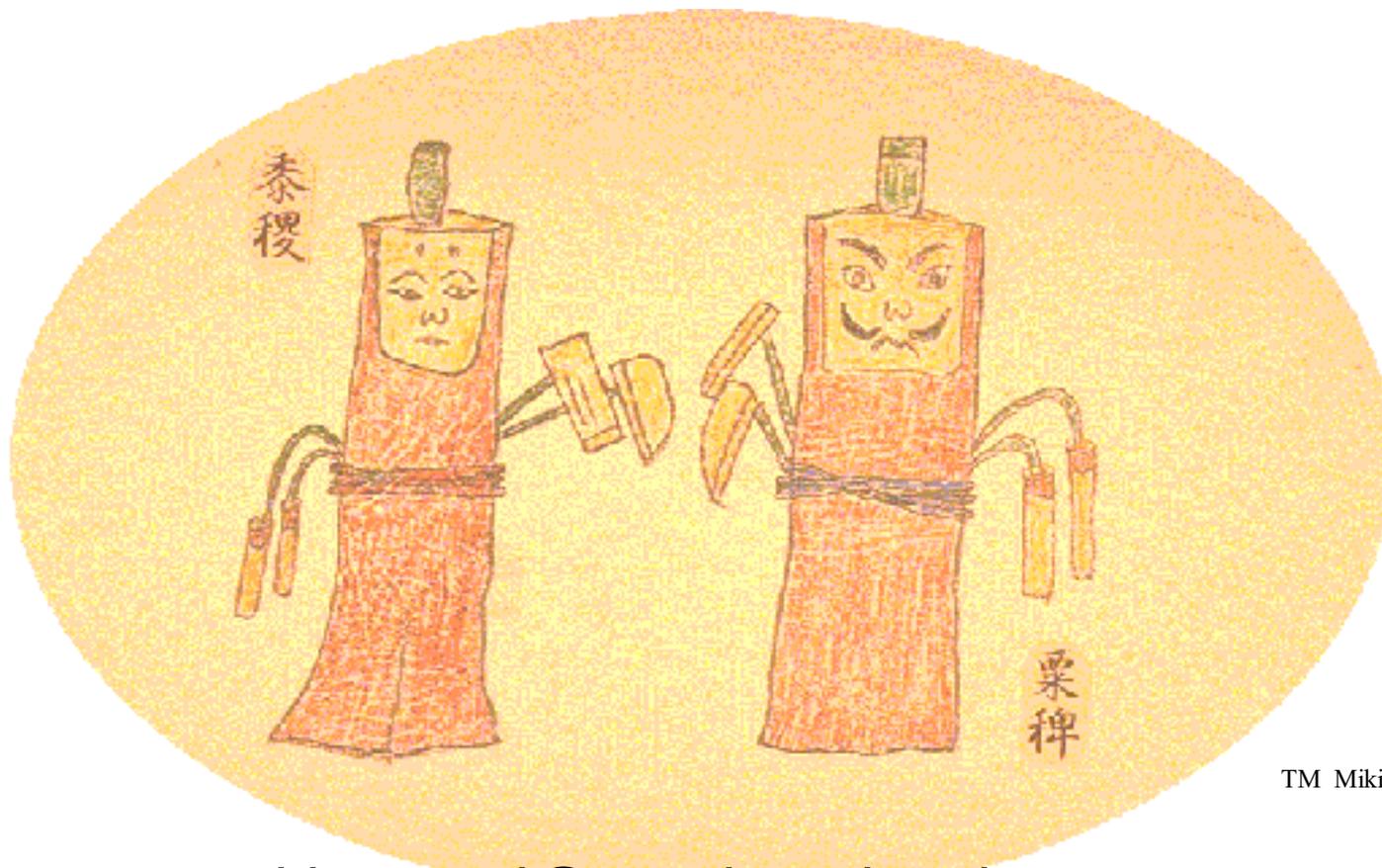
- 都市化、自然離れ
- 過疎化、山村衰微
- 高齢化、伝統的知識体系の不継承
- 栄養バランス悪化、肉食過多
- 少子化、人口減少
- 耕作放棄地の拡大、鳥獣害＝野生の順化
- 所有者不明の土地の増大
- 環境変動 地球温暖化、大気・水・放射性物質などの汚染激化、自然災害；台風・地震
- 社会変動 戦争拡大、経済格差、食料廃棄と不足、人心の荒廃
- 科学技術の発達 過剰な便利、生命科学、人工知能
- 資源の枯渇 森林、水産物、鉱物、綺麗な水
- 先真文明が求められる移行期transition

憲法に環境原則を加える

第三章環境；三の一条（権利と責務）、三の二条（国の責務と国民の参画）、三の三条（予防原則）、三の四条（国際協力）。＜環境文明21提案＞

三の五条（生活文化）何人も、自然環境に依拠する生業を学習、継承し、多彩な稔を得る生活文化を享受するとともに、家族、地域社会と協働して、自然、農林地の管理を行い、並びに自然災害・人為災害に対応するために、食料、資材を備蓄し、国と地方公共団体はこれらを保障する。＜木俣追加提案＞

ご清聴 ありがとうございます



黍稷農季人

TM Mikio Katsunbou Kimata

連絡先:木俣 kimatami@u-gakugei.ac.jp

ホームページ:

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>